

平成27年度・事業報告（和光苑）

《 特別養護老人ホーム・新館 》

定員30名

① ユニットケアの推進

少人数で入居者と接する時間や機会を増やし関係性を密にする事、また、家庭的雰囲気の中で本人が生活の主体者となる生活確立する事がユニットケアの目標であり達成すべき課題でもある。

そのため、各ユニット毎にユニットリーダーを配置しユニットケアの推進に努めているが、ユニットリーダー研修で学んだ内容が活かされていないことや、その役割を発揮できていないこと、要介護度が重度化する中で安静、安楽を優先する等の課題がある。

○新館におけるユニットケアの課題

要介護4・5の方が88%（年間平均）を占める状況になってきたため、ゆっくりとした時間の流れの中で、入居者と関われる時間が減り、情緒的な交流が出来にくくなっている事もユニットケアが進まない要因といえる。

＜要介護度・年間平均＞

要介護度	構成割合
要介護 3	12.0%
要介護 4	52.5%
要介護 5	35.5%

＜要介護度の推移＞

	平成27年4月		平成28年3月
要介護 3	18.7%	} 81%	10%
要介護 4	50%		46.6%
要介護 5	31.3%		43.4%
			} 90%

② ケア理念：倫理観に基づくケアの実践について

虐待、不適切ケア防止については特養との合同研修及び専門委員会活動において職員への意識改革に努めてきたが、新館入居者家族より苦情が寄せられた。

その内容は、心理的虐待に類する内容で、「ある一人の職員が聞くに耐えない乱暴な言葉遣いを発している。また、親から“何か言ったら何されるかわからない”と言っている。

“怖くて言えない雰囲気があるとしたら問題だと思う”との言葉による抑制がある事の訴えが寄せられた。

[対応]

- ・当該部署のリーダーへ報告を行い、全職員に対して指導を徹底するよう指示する。
- ・上記の発言をした職員に対しては、個別に厳重注意を行った。

③ 会議について

職員間の意思統一を図るため、新館全体で年間5回会議を行っている。また、その際には事例検討会も兼ね情報の共有、及びケアの統一を目指してきた。

本館・資料 4を参照

④ 安心、安楽な生活の実現

新館においても特養と同様、転倒転落事故が半数以上を占めている。

これらは生活力の向上をめざし、出来るだけ動きのあるケアとの関連の中で事故へのリスクが高まっている関連の中で起きていると考えられる。

また、介護中における骨折事故が一件起きている。これらは、職員間の情報共有の不足による本人状態の把握の不十分さがあると考えられる。本来してはならないケアを行った結果であると共に、介護技術の知識不足ともいえる。

⑤ 研修及び施設の社会的機能等について（特に実習受け入れ）

特養の事業報告書を参照。

入退所の状況

《入 所》		⇒ 特 養 ⇒	《退 所》	
他施設	2名		医療機関	6名
グループホーム	1名		死亡	5名
家庭	5名			
医療機関	3名			
計	11名		計	11名

入居者の年齢推移（平均）

	H27. 4. 1 現在	⇒	H28. 3. 31 現在
男性	89.0歳	⇒	89.0歳
女性	88.0歳		88.2歳
平均	88.5歳		88.6歳

⑥ 要介護度別利用日数

